

2025 年 10 月 12 日（聖霊降臨後第 18 主日・特定 23、C 年）

メッセージ

「わたしは神様に救われた！」

（ルカによる福音書17: 11-19）

司祭ヨセフ太田信三

主イエス一行が通りかかったとき、十人の規定の病（※）の人々が声を張り上げました。イエスは彼らの叫びに応え、「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」と言われました。彼らはすぐに従い、祭司のところへ向かうその途中で患部が「清くされた」ことを知りました。

レビ記 13 章の規定によると、重い皮膚病にかかり、祭司から「あなたは汚れている」と言い渡された患者は、ユダヤ人の共同体から隔離され、町の外に一人で住まねばならず、歩くときも「わたしは汚れた者です。汚れた者です」と叫ばなければなりません。症状がおさまり、祭司に体を見せて「あなたは清い」と認められるまで、患者は共同体に復帰することが許されません。それゆえイエスは、十人の患者に「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」と指示したのです。おそらく、イエスのもとに戻らなかった 9 人は、喜びのなか、家族の元へ急ぎ帰ったのでしょう。では、戻ってきた一人には何が起こったのでしょうか。

15 節「自分が癒やされたのを知って」という箇所では、ルカによる福音書は意図的にそれまでの「清くされた」という表現を、「癒やされた」と言い換えています。ここで、「知って」とされているのは、「見る」という単語です。たしかに、他の九人もイエスの言葉にすぐに従いました。しかし、この一人だけが「清くされた」こと以上のことを「見た」のです。彼が「見た」ものとは、清くされた患部の向こう側に働く神の憐れみの御手です。

「神がわたしを救われた！」ということを見た彼は、感謝せずにはおられず、イエスのもとに走り戻りました。いまや彼は、神がおられることをその目で知り、神と共にある命に迎え入れられたのです。

奇跡は救いの入り口でしかありません。その先にある主の御手による憐れみを見、神との交わりに迎えられるとき、救いは完成します。信仰とは、「その先」に働かれている神を見る目のことです。その目があれば、神の「わたしへの働きかけ」に気付くことができます。それゆえ主イエスは、「あなたの信仰があなたを救った。」と言われたのです。今日の福音で、救いから遠いとされていたサマリア人が救われたように、わたしたちも信仰という目をいただき、神の御手を見、神との交わりに迎えられ、賛美と感謝のうちに生かされたいと願います。

※かつて「らい病」「重い皮膚病」と訳されていたヘブライ語ツァラアトが、差別的語感を避けて「規定の病」と訳されるようになりました。これは訳語の選択だけでなく、私たちが語る「痛み」や「病い」に対する意識を新たに問うものでもあります。この変化の意味をそれぞれが考え、私たち自身が当たり前に持っている価値観を省みつつ、聖書の言葉をより深く受け止めていきましょう。